

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年9月30日現在

## 今月の重点活動

### ■えだまめ 第4回産地戦略会議を開催

9月3日、JAぎふ本店、西郷支店、岐阜市の担当者等と産地戦略会議を開催し、岐阜市西郷地区におけるえだまめなどの作付け状況を色塗りした地図を基に、えだまめの農地集積の進め方や推進上の課題などについて検討を行った。

西郷地区では、今後耕作できない人の農地が増加することが予想され、「えだまめ部会という受け皿があるとありがたい」「農地集積については、まずは地区農政推進会議で方針を決め進めたい」「借り手のルールづくりが必要である」などの意見が出され、関係機関が協力して、えだまめの農地集積を進め、面積拡大を目指していくことを確認した。

今後、農業普及課では、西郷地区全体を捉えた農地利用方針について関係機関と調整を図るとともに、えだまめ部会やJAぎふなど関係機関と連携し、規模拡大意向のある生産者の把握や借り手側のルールづくりを行い、貸し手側とのマッチングや地区農政推進委員への説明などの取り組みを行う予定である。（園芸産地支援第一係・川部 知）



【産地戦略会議の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■秋冬ブロッコリー 定植作業開始

JAぎふブロッコリー生産連絡協議会では、9月4日～25日にかけて定植作業が行われ、各生産者とも長期安定出荷を目指し、品種と定植日を組み合わせ合わせた栽培計画を立てているが、雨天続きにより、作業遅れとなるケースが多かった。

農業普及課では、定植までの苗管理や畝立て作業のタイミング、各品種の定植期限等の長雨対策を説明し、収穫に結びつくよう考えながら作業を進めるよう指導した。

今年度は、苗注文で初めて栽培面積20haを超えており、今後は、天候に合わせた栽培管理について指導し、出荷量の増加を目指す。

（地域支援第一係・稲葉千佳）



【定植の様子】

## 売れる農畜産物づくり

### ■(農)市之枝営農組合 適正な複合経営を目指して

9月17日、農業普及課、JAぎふは、先月聞き取りを行った羽島市の市之枝営農組合の労働状況を図表化した資料を利用し、今後の経営方針について話し合った。

当組合は、専従オペレーターの確保のためにも、周年の作業が必要で、農閑期に作物を導入し経営安定を図りたいという意向がある。アスパラガスの導入も検討していることから、農業普及課では、過重労働の回避、経営試算を行いながら次回に提案を行う。

（地域支援第二係・山田隆史）



【アスパラ予定地の測量】

### ■大豆 帰化アサガオ対策現地検討会

9月14日、本巣市の大豆ほ場において、JA、全農、農薬メーカー、農業普及課が参加し、帰化アサガオ対策現地検討会を開催した。

近年、問題化している大豆の帰化アサガオ防除対策として、除草剤の体系防除実証ほを設置しており、フルミオ+大豆バサグランの体系処理により、マルバルコウの発生を抑えられることが確認できた。同時に、効果が弱いマルバアメリカアサガオが新たに増加していることが分かったが、慣行防除との比較では除草効果は期待できるため、今後は実用化に向けた検討を行う。（地域支援第三係・岡田隆史）



【現地検討会の様子】

## 戦略的な流通・販売

### ■主要園芸品目 **J A 営農経済部とガヤガヤ会議を開催**

9月15日、主要園芸品目の課題や今後目指していく産地の方向性などを共有するため、J A ぎふ営農経済部と農林事務所の打ち合わせ会議を開催した。

まず、農業普及課から、J A 及び農林事務所の掲げる主要園芸品目の販売金額や栽培面積の目標数値を示し、緊急的に取り組むべき課題を説明した後、ガヤガヤ会議方式で意見交換を行った。

J A ぎふ幹部からは、「柿・いちごでは、できるだけ早く生産

協議会を設立したい」「将来的に1品目＝1部会としたい」「部会により利用規定や精算方法が異なっているいちごパッキングセンターについては、利用規定等を一本化し、利用量増加に対応するため、新たな設置スペースを確保したい」「えだまめの選別作業を負担に感じる高齢の生産者が多く、将来的には選別作業をも受託できる施設整備を考えたい」など、産地振興に前向きな発言があった。今回の会議を通じて、産地の課題や今後取り組むべき事項などについて、共通認識を深めることができた。

今後、農業普及課では、J A ぎふや部会などとの連携を密にし、品目ごとの今年度目標の達成に向けた活動を継続する計画である。（園芸産地支援第一係・近藤 勝）



【ガヤガヤ会議の様子】

### ■いちご **第5回産地戦略会議を開催**

9月11日、第5回いちご産地戦略会議を開催し、農業普及課から、前回までの指摘事項を踏まえ、いちご産地の問題点と対応策、対応策ごとの優先順位・実施時期・役割分担をまとめた「いちご産地振興プロジェクト」の修正内容について説明して了解を得ることができ、関係機関が連携しながら一体となって取り組みを進めるプロジェクトとして決定した。

その後、産地ビジョンの作成、環境制御技術の確立やパッキングセンター構想の策定など、最優先に取り組むべき事項について、今年度のいつまでに、どの段階までを目指すかという目標を協議し、決定した。

主なものとしては、6部会を束ねる生産協議会の設立に向け、年度内までに各部会長の合意を得ること、環境制御技術の確立とSNSによるネットワークづくりを進めるため、10月までに若手生産者研修会を開催するなどである。

今後、農業普及課では、関係機関と連携し、最優先事項に取り組むとともに、進捗状況の管理を行う予定である。（園芸産地支援第一係・渡辺新一）



【産地戦略会議の様子】

## 魅力ある農村づくり

### ■かき **獣への餌付け防止対策**

岐阜市山裾のかき園では、摘果した果実を放置すると、一晩でイノシシが食べ、跡形も無くなると言われており、9月1日に、重点課題として取り組んでいる円蔵洞地内のかき園において、摘果したかきを放置し、トレイルカメラによる撮影を試みた。

その結果、円蔵洞地内では、ニホンジカがかきを食べる様子が確認できたが、イノシシは撮影されなかった一方で、川を隔てた別のかき園で同様の調査を行ったところ、イノシシは撮影されたが、ニホンジカは撮影されず、場所によって食べに来る獣種が異なることが明らかになった。

摘果したかきの放置は、獣の餌付けとなり、味を覚えたイノシシが枝を折るなどの被害を及ぼすため、農業普及課では、今回の調査結果について情報提供するとともに、かき農家に対して摘果したかきを園内に放置しないよう意識づけを行うこととしている。

（園芸支援第二係・青山 哲）



【かきを食べるニホンジカ】